



◆其の八十四  
筑紫野にも  
前方後円墳があった！

一見するとうっそうと木が茂るただの森。皆さんのすぐそばにあるその森は、実は古墳時代人が造った巨大なお墓かもしれませ

ん。  
今から約1700年前に始まった古墳時代は、大きな墓(古墳)を造ることが特徴でした。

巨大な人工物である古墳を造るためには、多くの労働力と資材が必要で、有力な人物しか造れない代物でした。

なかでも、その地域で最有力の立場の人物が造った古墳が、特徴的な形をした前方後円墳(ぜんぽうこうえんふん)です。前方後円墳は前が方形、後ろが円形をしています。

当時の日本列島の墓は、前方後円墳を頂点として、古墳の形や大きさで埋葬された人物のステータスを表していました。



前方後円墳を上から見た模型図

「ちくしの」人もすっかり「古墳」時代の流れにのって、この地に前方後円墳を築いていたのです。開発によって失われたものもあり、現在、筑紫野の市街地で目

にできる前方後円墳は、武蔵3丁目の原口古墳のみです。全長80メートルをほこるこの古墳は、ヤマト政権とのつながりがあるとされる三角縁神獣鏡を3面もつ、古墳時代はじめごろの有力な人物の墓です。

その巨大さから、近づきすぎるとただの森にしか見えなくなる原口古墳。

かつて全国の有力者と肩を並べて活躍した人物が今もひっそり眠り続けているのです。



空から望む原口古墳(中央の森のように見える部分)

文化財課

